

# 我思ふ

ESSAY

宗宮 重行

8

## 少年老い易く 学成り難し

少年老い易く 学成り難し  
一寸の光陰 軽んずべからず  
未だ覚めず 池塘春草の夢  
階前の梧葉 すでに秋声

これは江戸時代 日本 の精神文化に多大の影響を与えた朱子学の大家 南宋の朱子(朱熹)の“偶々作つた”という“偶成”という詩である<sup>1)</sup>。

幼少より学問を志しながら、そろそろ老いを迎える年齢になっても、未だ大きな成果を果たせずにいる。ほんの瞬きする刹那ですら、時をおろそかにしてはならないのだ。春の池の堤に萌えはじめた若草のごとき端々しい。大志の夢はいまも変わらず覚めていないのに、ふと気がつけば、石段の脇に繁る梧桐の葉が秋の訪れでいつしか色づいているように、自分自身が人生の秋ともいふべき、初老の時期にさしかかってしまった。あの葉がやがて儚く散ってゆくと同様、自分もこのまま志を遂げることなく、いずれはこの世を去るばかりなのだろうか? 止めるすべもなく、無情にも時間だけが移り、ただ過ぎ去ってゆく…<sup>2)</sup>。

寸暇を惜しんで研鑽を積み重ね、学問をしなればという情熱、これが私に学問に対する深い感動をもたらすものである。

この漢詩と同じような英語のことわざがある。

Art is long, life is short.

この日本語訳は「芸術は長く、人生は短い」と言う事であり、或は人によって「人間の一生は短い、芸術作品は不朽だ」。

作者の死後も人の心の芸術作品は長く残る」と解する人もいられる。この英語文の出典はヒポクラテス(Hippocrates)でギリシャの医聖といわれる人である。

ヒポクラテスは多島海の小島ユス島に住み、そこの医者を養成する所の医学生に「人の一生は短いのにくらべ、医学は深くて究め難いものであるから、これに従事せんとするものは十分に戒めて怠らぬように」とさとしたのがこのことわざの始まりという。だから Art は本来ならば医学をさしている<sup>3)</sup>。

また「学問に王道なし」; There is no royal road to learning, はやはり勤勉に努力せよという言葉である。紀元前 300 年頃、ユークリッドが geometry をエジプト王トレミー

一世に教えているとき、There is no royal road to geometry (幾何学に王道なし)と答えたのが起源といわれており、後に geometry がより広い意味の learning (学問) になったといわれている<sup>3)</sup>。

更に私の好きな言葉として「今を大切に」という言葉がある。この句は東北帝国大学総長の本多光太郎先生がいわれたというが、勉学を志す者にとっては、一刻々々を大切に、して学問につとめることが重要と考える<sup>4)</sup>。

文献

- 1) 眞藤 健志郎 漢詩名句 故事名言を楽しむ, 203-204 (1992) 2版, (株) 日本実業出版社
- 2) 朱熹 日本経済新聞 朝刊 2001年 10月 8日 14版
- 3) 奥津 文夫 ことわざ この特質と背景 英語と日本語 243頁 サイマル出版社(1978) 特に 8-9頁
- 4) 本多光太郎 日本経済新聞社編 20世日本の経済人II, 日経ビジネス文庫 120-127 (2001年 2月 1日) 日本経済新聞社



イラスト・外村晋一郎